



設置業者様向け 設置説明書補足資料

EM-900 シリーズ、EM-1000 シリーズへの接続・設定について

ラック型非常業務遠隔操作器 インテリジェント PA システム

型名 **EM-C1560** シリーズ
EM-C1540 シリーズ

設置説明書
(補足版)

もくじ

はじめに

安全上のご注意.....3
設置・設定時のご注意.....3

非常業務遠隔操作器の設置と接続

非常業務遠隔操作器
(EM-C156/EM-C154) の取り付け5
 外線の引き込みと取り付け5
 接続方法6
非常業務遠隔操作器 (EM-C156/EM-C154) の
接続.....8
 コネクター端子台への接続方法..... 10
回線追加ユニットケース (EM-ES12-10/EM-E12)
の接続.....10
 接続方法10
回線追加ユニット (EM-ES5/EM-E5) の組み込みと
接続..... 11

各ユニットの設定と調節

非常業務遠隔操作器 (EM-C156/EM-C154) と
回線追加ユニットケース (EM-ES12-10/EM-E12)
の設定..... 12
 非常業務遠隔操作器 (EM-C156/EM-C154) の設定と
 調節..... 12
 非常業務遠隔操作器 (EM-C156/EM-C154) と
 回線追加ユニットケース (EM-ES12-10/E12) の
 ES12/E12 アドレス設定..... 13

その他

点検時のご注意..... 14
 システム点検モードにおけるご注意..... 14
 動作点検モードにおけるご注意 (EM-C154 を
 EM-1000 シリーズに接続した場合のみ) 14

この説明書の見かた

■本文中の記号の見かた

- ご注意： 操作上の注意が書かれています。
メモ： 機能や使用上の制限など、参考になる
内容が書かれています。
図： 参考ページや参照項目を示しています。

■本書の記載内容について

- 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
- 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では ™、®、© などのマークは省略してあります。
- 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。

■商品名、機種名、呼称の一覧

本書では、機器の名称を機種名や呼称で表記しています。同じシリーズの機器は機種名を一部省略して表記する場合があります。(例：EM-C156/C154)
各機器の商品名、機種名と呼称は次のとおりです。

商品名	機種名	呼称
非常業務操作器	EM-E156 EM-E106 EM-E96	本体
非常業務放送装置	EM-E1500 シリーズ EM-E1000 シリーズ EM-E900 シリーズ	
非常業務遠隔操作器	EM-C156 (EM-C1560 シリーズ) EM-C154 (EM-C1540 シリーズ) EM-C106 (EM-C1000 シリーズ) EM-C96 (EM-C900 シリーズ)	非常リモコン
回線追加ユニットケース	EM-ES12-10	回線追加ケース
回線追加ケース	EM-E12	
回線追加ユニット	EM-ES5 EM-E5	回線追加ユニット
主入力制御ユニット	EM-Y152 EM-Y102 EM-Y92	—
回線制御ユニット	EM-L152 EM-L92	—
標準ラックケース	PA-R641B	ラックケース
ミニラックケース	PA-R631B	
リモコンケース	EM-R6	リモコンケース
追加リモコンケース	EM-R2	

安全上のご注意

EM-C1560 シリーズまたは EM-C1540 シリーズに添付される「安全上のご注意」と合わせてご注意いただきたい注意項目です。ご使用前によくお読みのうえ、正しくお使いください。

- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のときは、すぐに電源分電盤のブレーカーをオフするとともに、蓄電池のコネクターをはずしてください。
- 落雷により不具合が発生した場合は、すみやかに弊社サービス窓口にご連絡ください。
- ラックは、転倒・移動防止のために必ずアンカーボルトで床面に固定してください。倒れたり、動いたりしてけがの原因となることがあります。
- 本機を壁面に取り付けるときには、機器の質量に十分耐えられる強度を持った場所に取り付けてください。強度が足りない場合は、落下し、けがをすることがあります。
- 取り付けねじやナットで締め付ける箇所がある機器は、締め付けが不確実だと落下する恐れがありますので確実に締め付けてください。
- 機器の上部や操作面の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと機器内部の温度が上昇し、故障やけがの原因となることがあります。
- 製品に悪い影響を与えますので、ほこりや振動の多いところには置かないでください。
- 機器間の接続線に足などを引っかけないようにご注意ください。つまずいてけがの原因になることがあります。
- AC 100 V の接続には電気工事士の資格が必要です。機器への接続は十分注意してください。誤った配線・接続は火災や感電の原因となります。
- すべての工事・配線が完了したら、電源を入れる前にもう一度、すべての結線・配線・コネクターが確実に接続できているか、また、極性間違いがないか確認してください。予期せぬ事故を未然に防げます。

設置・設定時のご注意

本書は、非常業務遠隔操作器 EM-C1560 シリーズおよび EM-C1540 シリーズを非常業務放送装置 EM-1000 シリーズおよび EM-900 シリーズに接続する場合に、本体に添付される「設置説明書（工事編）」および「設置説明書（設定・動作確認編）」では不足している、設置・設定に関する情報を補足する資料です。

本体に添付される「設置説明書（工事編）」および「設置説明書（設定・動作確認編）」を必ずお読みのうえ、設置・設定を行なってください。

- 設置作業は、けがや事故を防止するため、ヘルメット、安全靴や手袋など、設置に適した服装で行なってください。
- 次のような場所に設置しない
誤動作や故障の原因になります
 - ・ 許容動作温度（0℃～40℃）範囲外のところ
 - ・ 許容動作湿度（30%～80%）範囲外のところ
 - ・ 変圧器やモーターなど強い磁気を発生するところ
 - ・ トランシーバーや携帯電話など電波を発生する機器の近く
 - ・ ほこりや砂の多いところ
 - ・ 振動の激しいところ
 - ・ 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
 - ・ 放射線やX線、および腐食性ガスの発生するところ
- 接続ケーブル、コネクターの抜き差しをするときは、必ず先に蓄電池のコネクターをはずし、商用電源分電盤のブレーカーをオフにしてから作業してください。

システム設定時の放送と操作に関する注意

- 放送中は、システム設定モードにすることはできません。
- システム設定中は、プログラムタイマーなどの外部起動がかからないようにしてください。
- システム設定中は、本体（EM-E106/E96）での非常操作および非常リモコン（EM-C156/C154/C106/C96）、リモートマイクロホン（PA-C50 シリーズ）の操作はしないでください。

設置・設定時のご注意 (つづき)

システム設計に関するご注意

- 接続可能なユニットは非常業務放送設備によって異なります。

以下の互換表の組み合わせに従って接続してください。

非常業務放送設備と各ユニットの互換表

非常業務放送設備		非常業務 遠隔操作器	回線追加 ユニットケース
名称	主入力制御 ユニット		
EM-900 シリーズ	EM-Y92	EM-C900 シリーズ	EM-E12 (EM-E5) EM-ES12-10 (EM-ES5)
		EM-C1000 シリーズ	
		EM-C1560 シリーズ	
		EM-C1540 シリーズ	
EM-1000 シリーズ	EM-Y102	EM-C1000 シリーズ	
		EM-C1560 シリーズ	
		EM-C1540 シリーズ	

- 回線追加ケース (EM-ES12-10) へ組み込む回線追加ユニットは、EM-ES5 を使用してください。EM-E5 は使用できません。
- 回線追加ケース (EM-E12) へ組み込む回線追加ユニットは、EM-E5 を使用してください。EM-ES5 は使用できません。

EM-900 シリーズに接続した場合のご注意

以下の機能は EM-900 シリーズに接続した場合、制限されますのでご注意ください。

■ 緊急地震放送

非常放送より緊急地震放送を優先することはできません。緊急地震放送を放送中、表示灯は点滅しません。緊急地震放送を放送中に緊急地震放送停止スイッチを押しても、緊急地震放送を停止することはできません。

■ 緊急優先放送

緊急優先一斉放送、緊急優先ブロック放送、緊急優先起動放送には対応していません。
[緊急優先一斉] スイッチは、EM-900 シリーズの非常リモコン (EM-C96) の [緊急一斉] スイッチとして機能します。

■ 一斉はずし

[緊急優先一斉] スイッチ / [一斉] スイッチに放送しない場所を設定することはできません。

■ 内蔵メッセージ放送

業務ブロックスイッチで、内蔵メッセージを放送することはできません。

■ 制御出力ブロックスイッチ

ブロックスイッチで外部機器を制御することはできません。

■ 個別回線表示ブロック

放送場所をスピーカー回線ごとに確認することはできません。

■ 自動診断機能 (一部の機能に制限あり)

以下の自動診断機能は動作しません。

- ・ 非常業務兼用マイクの接続状態の監視
- ・ RB 信号 (カットリレー制御信号) の監視
- ・ 電源ユニットの動作の監視

■ 個別作動表示

個別作動表示機能を使用することはできません。

EM-1000 シリーズに接続した場合のご注意

以下の機能は EM-1000 シリーズに接続した場合、制限されますのでご注意ください。

■ 自動診断機能 (一部の機能に制限あり)

以下の自動診断機能は動作しません。

- ・ 非常業務兼用マイクの接続状態の監視
- ・ RB 信号 (カットリレー制御信号) の監視
- ・ 電源ユニットの動作の監視

■ 個別作動表示

個別作動表示機能を使用することはできません。

非常業務遠隔操作器 (EM-C156/EM-C154) の取り付け

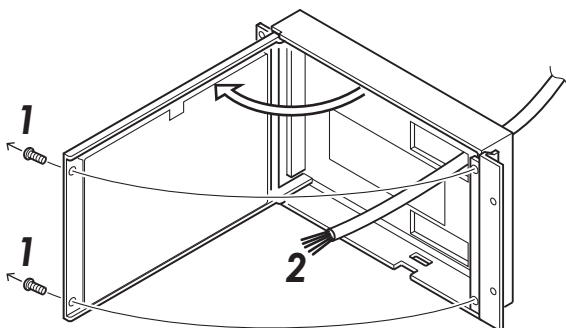
外線の引き込みと取り付け

1 操作パネルを開く

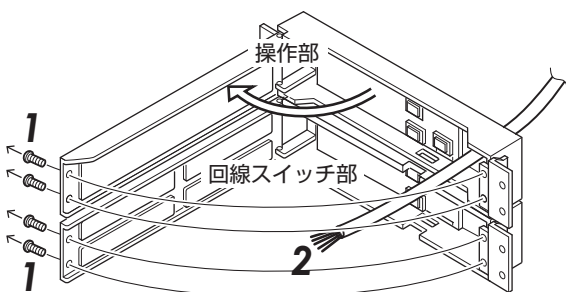
非常リモコン (EM-C156/C154) のパネル固定ねじをはずし、操作パネルを開きます。このとき、フロントパネルに接続されている非常業務兼用マイクを取りはずしてください。

2 通線孔から外線をケース内へ取り込む

EM-C156 の場合

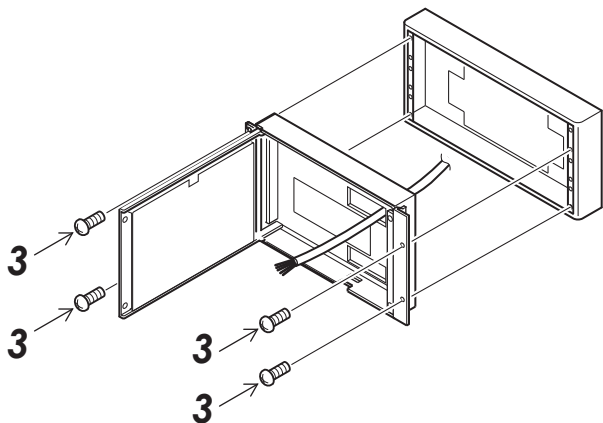


EM-C154 の場合

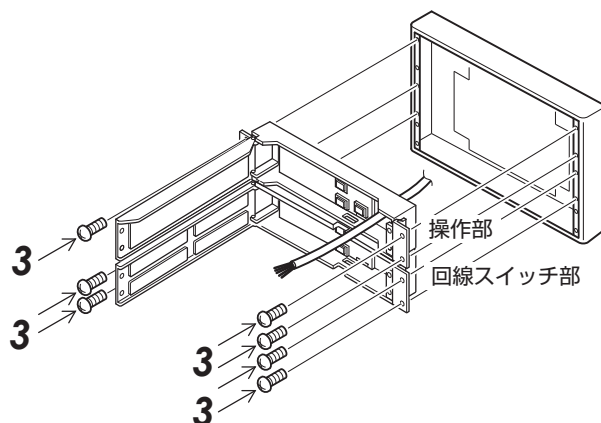


3 リモコンケース、またはラックケースに固定する

EM-C156 の場合



EM-C154 の場合

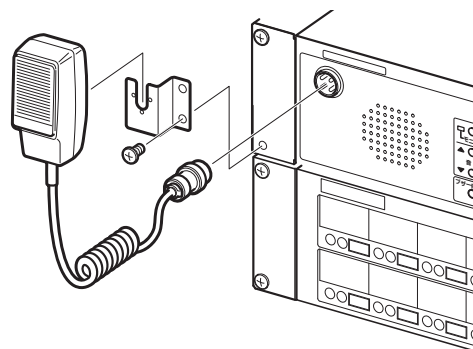


ご注意：

- リモコンケースまたはラックケースは、必ず接地工事を行ってください。

4 マイクホルダーを取り付ける (EM-C154 のみ)

マイクホルダーを、ラックマウント用ねじと共締めして固定してください。

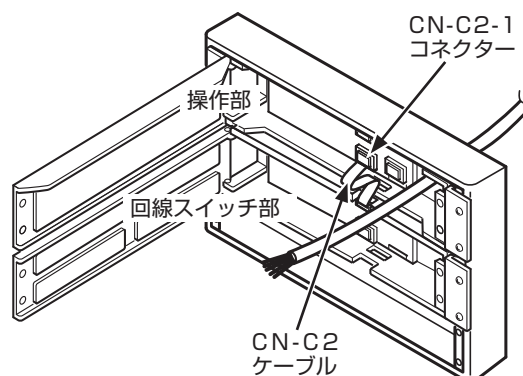


メモ：

- マイクホルダーは上側の穴を使用して取り付けることもできます。

5 操作部と回線スイッチ部の接続 (EM-C154 のみ)

回線スイッチ部の CN-C2 ケーブルを操作部の CN-C2-1 コネクターへ接続します。



非常業務遠隔操作器 (EM-C156/EM-C154) の取り付け (つづき)

接続方法

接続可能なユニットは非常業務放送設備によって異なります。
「非常業務放送設備と各ユニットの互換表」(P. 4 ページ) に従って接続してください。

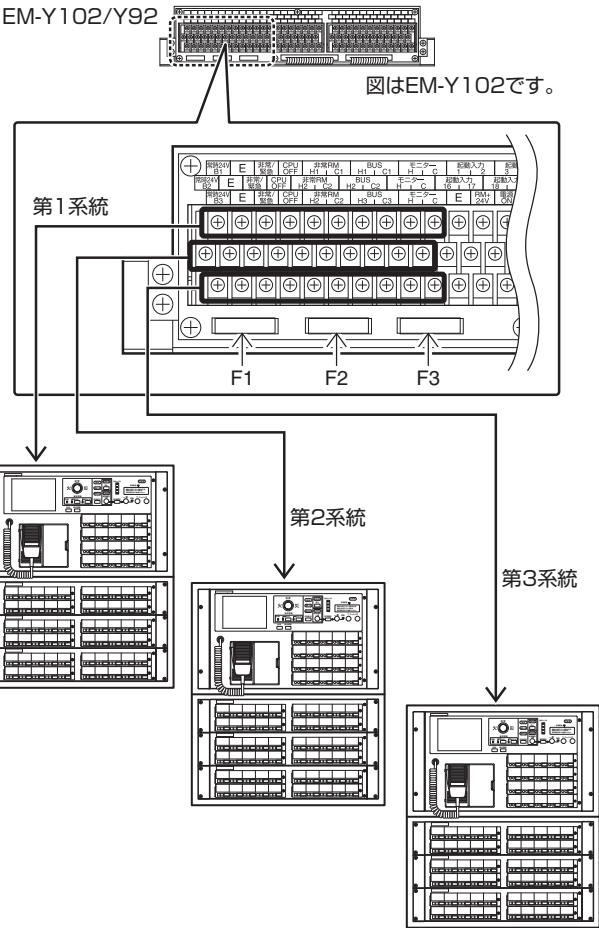
- 非常業務遠隔操作器 (EM-C1560 シリーズ、EM-C1540 シリーズ、EM-C1000 シリーズ、EM-C900 シリーズ) は、合計で 8 台まで接続できます。
- EM-C1560 シリーズ、EM-C1540 シリーズ、EM-C1000 シリーズ、EM-C900 シリーズを複数台使用するとき、主入力制御ユニット (EM-Y102/Y92) の端子から分岐して各遠隔操作器へ接続してください。(スター配線)
- EM-C1560 シリーズ、EM-C1540 シリーズ、EM-C1000 シリーズ、EM-C900 シリーズと接続する主入力制御ユニット (EM-Y102/EM-Y92) の端子は 3 系統あります。1 系統に 3 台まで接続できます。
- EM-C1560 シリーズ、EM-C1540 シリーズ、EM-C1000 シリーズ、EM-C900 シリーズを複数接続するときは、3 系統にバランスよく分散接続してください。

ご注意：
● 本接続ケーブルの配管には、AC 100 V 線、スピーカー線などを一緒に入線しないでください。通信異常や発振の原因になります。

接続系統と対応ヒューズ

- EM-C1560 シリーズ、EM-C1540 シリーズへ供給する電源ライン (常時 24 V B1 ~ 常時 24 V B3) には、系統ごとにヒューズが接続されています。各系統に対応するヒューズは以下のとおりです。

第 1 系統 (常時 24 V B1)	F1
第 2 系統 (常時 24 V B2)	F2
第 3 系統 (常時 24 V B3)	F3

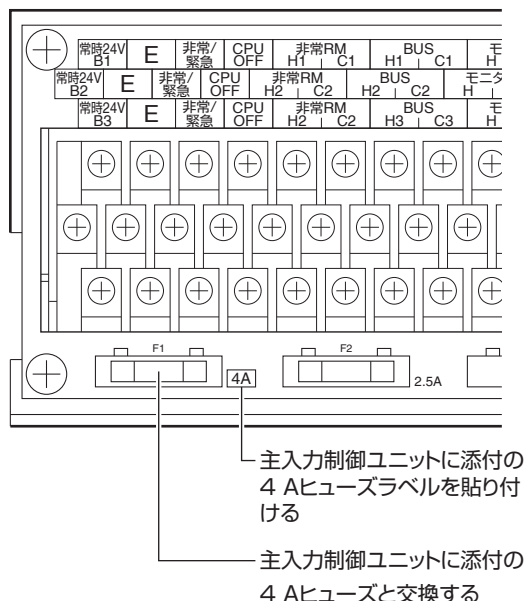


- ・ 1 系統での消費電流が 2.5 A をこえるときは、該当系統のヒューズを主入力制御ユニット (EM-Y102/Y92) に添付の 4 A ヒューズに交換し、添付の 4 A ヒューズラベルを貼り付けてください。

参考消費電流は、以下のとおりです。

- EM-C156 : 380 mA
- EM-C154 : 320 mA
- EM-C106 : 350 mA
- EM-C96 : 400 mA
- EM-ES12-10 (EM-ES5 を追加で 2 個組み込み) : 36 mA
- EM-E12 (EM-E5 を 4 個組み込み) : 52 mA

例) 第 1 系統のヒューズを交換



詳しくは、EM-1000 シリーズまたは EM-900 シリーズの「設置説明書 (工事編)」をご覧ください。

- 接続ケーブルは、 ϕ 0.65 mm 以上の耐熱対燃りケーブル (5P) を使用してください。
- ケーブルの線路抵抗は回線数に応じて、以下の表の指定値となるようにしてください。指定値よりも大きい場合は 6P 以上のケーブルを使用して、並列接続で線路抵抗値を指定値以下にしてください。
- 線路抵抗値が規定値以下であれば、最長 1 km まで延長できます。
- 耐熱対燃りケーブル (APK) 5P による接続可能距離は次の表のとおりです。

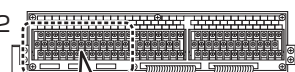
線路抵抗の指定値と 5P の耐熱対燃りケーブルでの接続可能距離 (EM-C156/C154 のみ)

		回線数			
		40 回線以下	41 回線～80 回線	81 回線～160 回線	161 回線以上
線路抵抗指定値	常時 24 V B E	5 Ω 以下	4 Ω 以下	3 Ω 以下	2 Ω 以下
	上記以外	20 Ω 以下	20 Ω 以下	20 Ω 以下	20 Ω 以下
接続可能距離 (APK 5P)	ϕ 0.65 mm	80 m	70 m	50 m	30 m
	ϕ 0.9 mm	170 m	130 m	100 m	60 m
	ϕ 1.2 mm	300 m	240 m	170 m	120 m

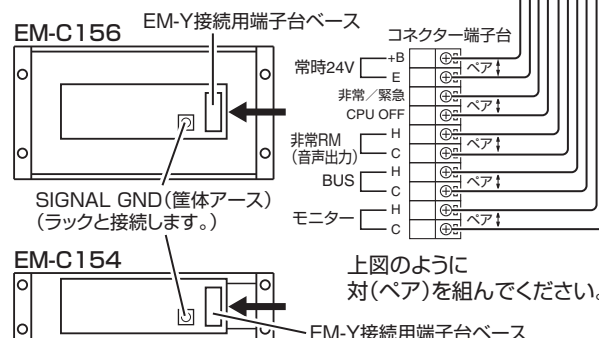
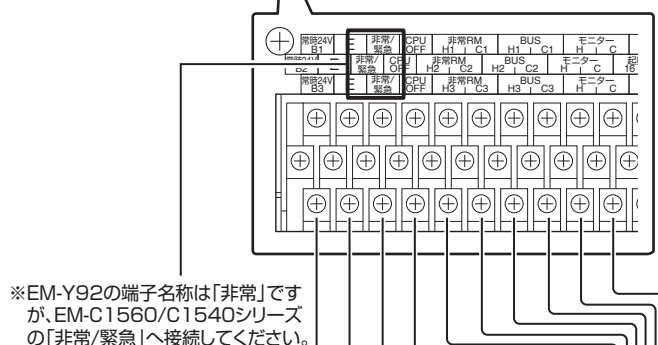
ご注意：

- 上の表は、非常リモコン (EM-C156/C154) の消費電流から算出される線路抵抗指定値と接続可能距離です。EM-C106 や EM-C96 を接続する場合は、必ず接続する放送設備の「設置説明書 (工事編)」に記載される指示値に従ってください。

EM-Y102/Y92



図は EM-Y102 です。

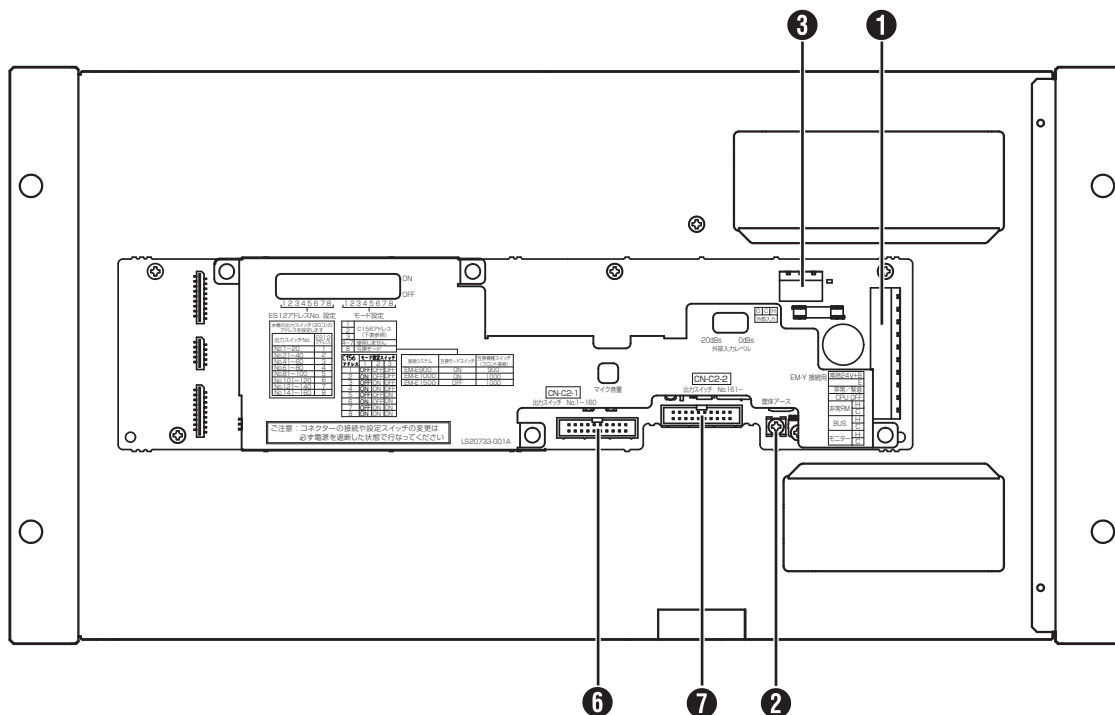


非常業務遠隔操作器（EM-C156/EM-C154）の接続

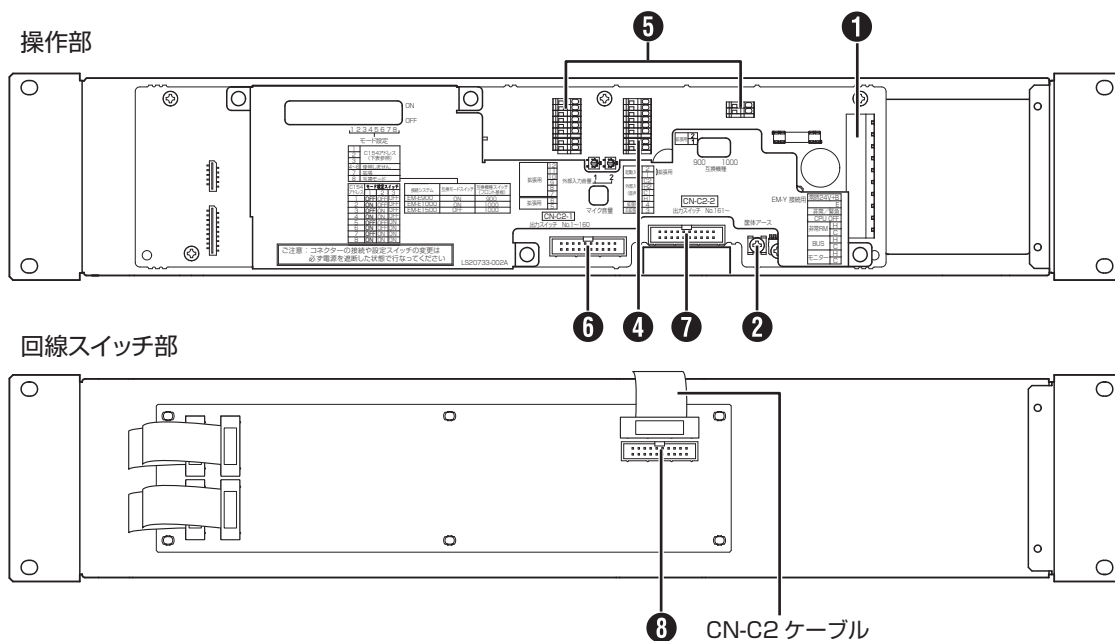
メモ：

- 非常リモコンの操作パネルを開くときは、フロントパネルに接続されている非常業務兼用マイクを取りはずしてください。

EM-C156



EM-C154



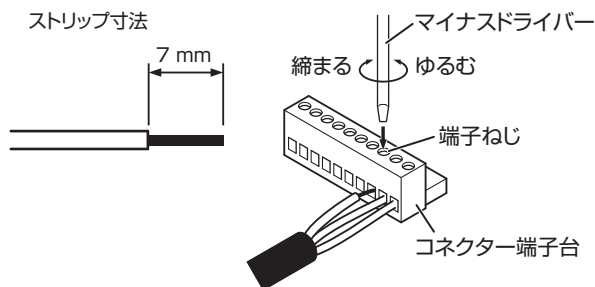
① EM-Y 接続用端子台ベース

主入力制御ユニット (EM-Y102/Y92) からの接続ケーブルのコネクター端子台を接続します。

コネクター端子台は、非常リモコン (EM-C156/C154) に付属しています。

・コネクター端子台への接続方法

- ① 端子ねじを完全にゆるめてから、芯線を差し込む
- ② 芯線を各はさみ込み口に挿入し、端子ねじを締め付ける
芯線を引っ張って、抜けないことを確認してください。



- ③ コネクター部を、接続する端子台ベースに確実に差し込む

ご注意：

- コネクター端子台は、必ず非常リモコン (EM-C156/C154) に添付されているものを使用してください。
別のユニットに添付されているものを使用した場合、嵌合の互換性がないため接触不良による動作不良の原因となります。

② SIGNAL GND (筐体アース)

ラックに接続します。(アース線は非常リモコン (EM-C156/C154) に付属しています。)

③ 外部入力 (音声・電子平衡 -20 dBs/0 dBs 切り換え) (EM-C156 のみ)

CD プレーヤーなどの演奏機器からの音声信号を接続します。

接続する機器の音声出力レベルに合わせて、外部入力レベル切り換えスイッチを適切に合わせてください。

非常リモコン (EM-C156) の放送したい場所の出力スイッチ (放送階選択スイッチ、業務ブロックスイッチ)、または [一斉] スwitchを押すと、接続した機器からの音声放送されます。(非常リモコン放送よりも優先順位の高い放送中を除く。)

不平衡出力の演奏機器を接続する場合は、コネクター端子台の C は演奏機器の GND と接続してください。

コネクター端子台への接続方法は、10 ページをご覧ください。

④ 外部入力 1,2 (音声・電子平衡 -20 dBs) (EM-C154 のみ)

CD プレーヤーなどの演奏機器からの音声信号を接続します。

外部入力 1,2 は、内部でミックスされています。

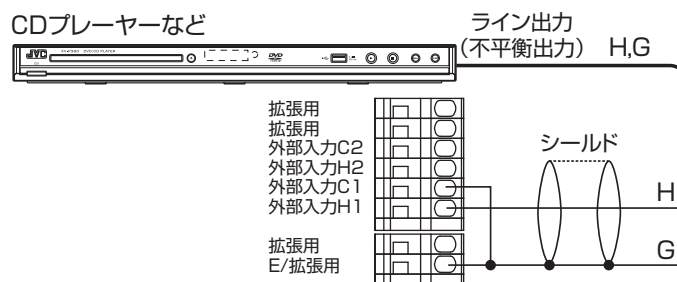
放送のしかたは、③ 外部入力 (EM-C156 のみ) と同じです。

プッシュ端子台

拡張用	使用しません。(特注システム用)
拡張用	使用しません。(特注システム用)
外部入力 C2	演奏機器の音声信号を接続します。
外部入力 H2	
外部入力 C1	演奏機器の音声信号を接続します。
外部入力 H1	
拡張用	使用しません。(特注システム用)
E/拡張用	演奏機器の GND を接続します。 (特注システムでも使用します。)

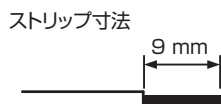
不平衡出力の演奏機器を接続する場合は、プッシュ端子台の C は演奏機器の GND と接続してください。

外部入力 1 への接続



対応しているケーブルの芯線の太さは $\phi 0.5 \sim \phi 0.8$ 、または AWG20 ~ 24 です。

芯線の被服は、9 mm の剥きしろでストリップ処理をしてください。



プッシュ端子台へ芯線を挿入したあと、芯線を引っ張って抜けないことを確認してください。

⑤ 拡張用端子台

使用しません。(特注システム用)

⑥ CN-C2-1 (3M-20P)

EM-C156：回線追加ケース (EM-ES12-10/E12) からの CN-C2 ケーブルを接続します。複数台使用するときは 1 ~ 7 台目までの CN-C2 を順送りで接続します。

EM-C154：回線スイッチ部からの CN-C2 ケーブルを接続します。

⑦ CN-C2-2 (3M-20P)

回線追加ケース (EM-ES12-10/E12) を 8 台以上使用するとき、8 台目の回線追加ケースから CN-C2 ケーブルを接続します。

複数台使用するときは 8 ~ 15 台目までの CN-C2 を順送りに接続します。

回線追加ケースに付属のケーブルでは長さが不足するときは、別売のケーブルセット (EM-CN90) 内に付属の 1.1 m ケーブルを使用してください。

⑧ CN-C2 (EM-C154 のみ)

回線追加ケース (EM-ES12-10/E12) からの CN-C2 ケーブルを接続します。

複数台使用するときは 1 ~ 7 台目 (回線スイッチ部は含まず) までの CN-C2 を順送りで接続します。

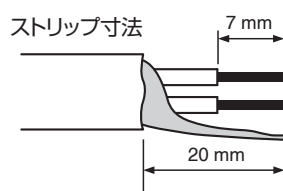
非常業務遠隔操作器 (EM-C156/EM-C154) の接続 (つづき)

コネクター端子台への接続方法

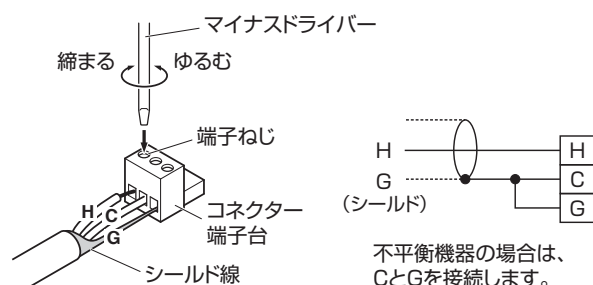
ご注意：

- コネクター端子台は、必ず各ユニットに添付されているものを使用してください。
異なるユニットに添付されているものを接続した場合、嵌合の互換性がないため接触不良の原因となります。

1 シールド線の被覆を下図のように処理する



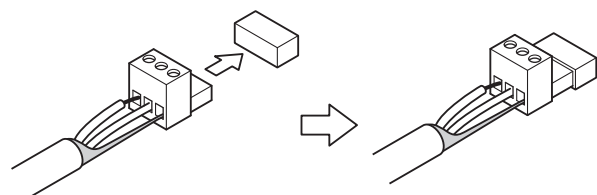
2 芯線を各はさみ込み口に挿入し、端子ねじを締め付ける



メモ：

- 端子ねじを完全にゆるめてから芯線を挿入してください。

3 コネクター部を接続する端子台ベースに確実に差し込む



回線追加ユニットケース (EM-ES12-10/EM-E12) の接続

非常リモコン (EM-C156/C154) には、出力スイッチを 20 回路 (4 列) 内蔵していますが、21 回路以上使用するときは、回線追加ケース (EM-ES12-10/E12) を増設し、回線追加ユニット (EM-ES5/E5) を組み込んでください。回線追加ケースは、最大 15 台まで増設できます。

接続方法

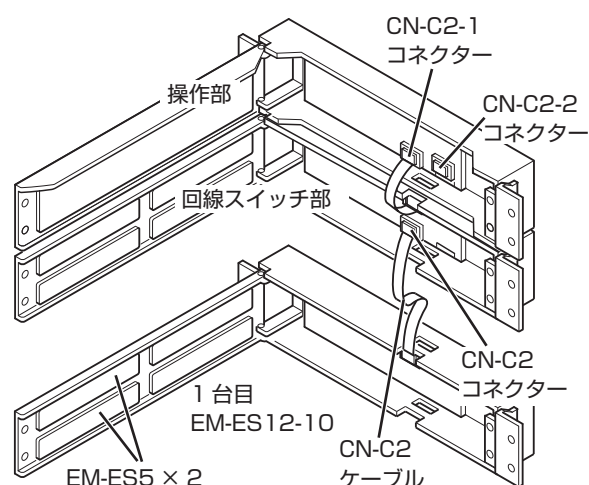
EM-C156 の場合

EM-C96 および EM-C106 と同様です。

接続する放送設備の「設置説明書 (工事編)」に従って接続してください。

EM-C154 の場合

下図のように回線追加ケース (EM-ES12-10/E12) に付属の CN-C2 ケーブルを、非常リモコン (EM-C154) 回線スイッチ部の CN-C2 へ接続してください。



- 1 ~ 7 台目までは、回線追加ケース (EM-ES12-10/E12) に添付の CN-C2 ケーブルで、CN-C2-1 を順送り接続してください。
- 追加台数 8 ~ 15 台目の回線追加ケース (EM-ES12-10/E12) は、非常リモコン (EM-C156/C154) の CN-C2-2 を順送り接続してください。
- 回線追加ケース (EM-ES12-10/E12) に付属の CN-C2 ケーブル (20 cm) では長さが足りないときは、ケーブルセット (EM-CN90) の CN-C2 ケーブル (1.1 m) または、弊社サービス窓口扱いの CN-C2 ケーブル (1.1 m) をご使用ください。
- 出力スイッチが EM-C156 は 100 回路、EM-C154 は 120 回路をこえるときは、複数台のラックケースを使用することになります。そのため、CN-C2 ケーブル (1.1 m) が必要になります。

ご注意：

- CN-C2 のケーブル長の合計は、必ず 3.5 m 以内にしてください。

回線追加ユニット(EM-ES5/ EM-E5)の組み込みと接続

EM-E5 の場合

ご注意： _____

- EM-E5 は、回線追加ケース (EM-ES12-10) に組み込むことはできません。

接続する放送設備の「設置説明書 (工事編)」に従って接続してください。

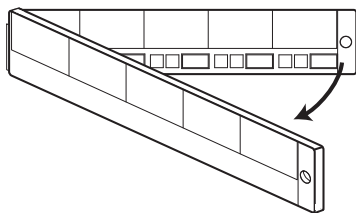
EM-ES5 の場合

ご注意： _____

- EM-ES5 は、回線追加ケース (EM-E12) に組み込むことはできません。

1 ネームボード固定ねじをはずす

回線追加ユニット (EM-ES5) を組み込む場所のブラック用ネームボード、および回線追加ケース (EM-ES12-10) のフロントパネルの固定ねじをはずします。



メモ： _____

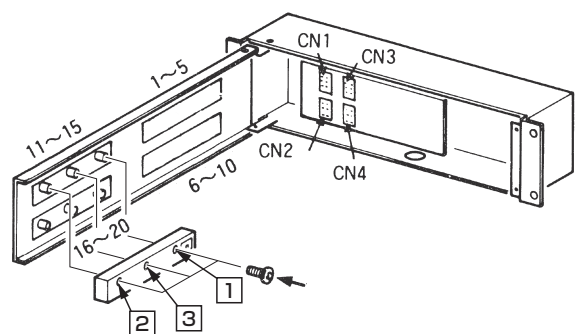
- 回線追加ケース (EM-ES12-10) は出荷時、10 回線 (1 ~ 5、6 ~ 10) 組み込み済です。

2 各回線追加ユニットを取り付け、コネクタに接続する

各回線追加ユニット (EM-ES5) を、フロントパネルの背面で位置を合わせ、回線追加ユニットに付属のねじ 3 本で ①→②→③ の順にねじ留めしてください。また、回線追加ユニットからのコネクタケーブルを、回線追加ケース (EM-ES12-10) のコネクタに接続してください。

回線追加ケース内コネクタ基板のコネクタ番号と、回線追加ユニット組み込み場所 (選択スイッチ No.) は、下図のように対応しています。

1~5	11~15
6~10	16~20



CN1	---	選択スイッチ番号	1 ~ 5
CN2	---	選択スイッチ番号	6 ~ 10
CN3	---	選択スイッチ番号	11 ~ 15
CN4	---	選択スイッチ番号	16 ~ 20

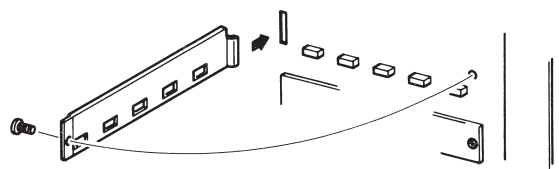
- ・ワイヤーは、フロントパネルの開閉ができるように基板背面に貼り付けてあるクランプを利用して処理してください。

ご注意： _____

- スwitchのレイアウト上、回線追加ユニット (EM-ES5) の取り付け位置と接続コネクタを変える場合には、前図のような順序になっていることを十分認識のうえ対応してください。

3 ネームボード、フロントパネルを固定する

ネームボードとフロントパネルを、1 ではずしたねじで固定します。

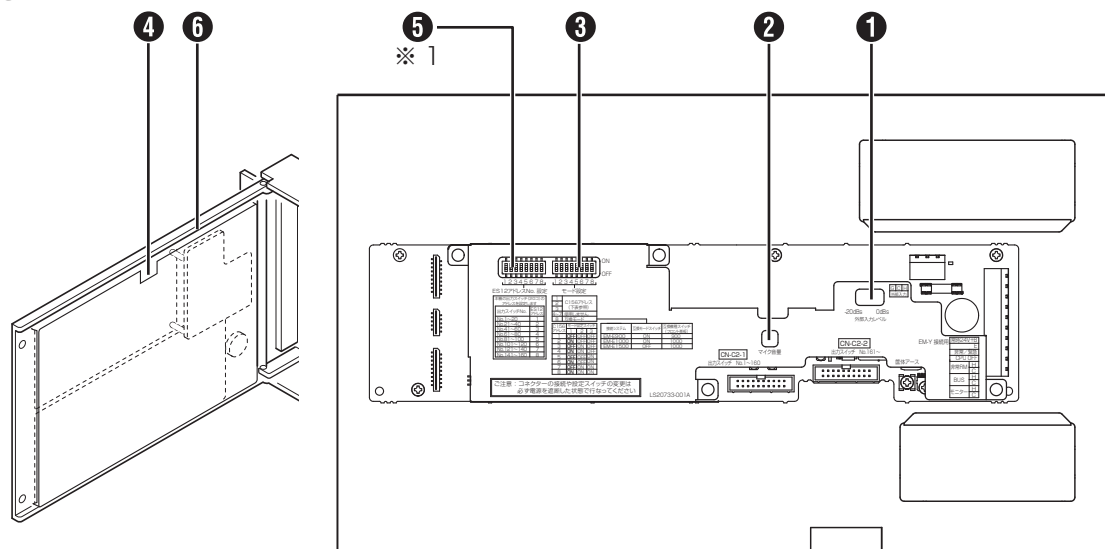


- ・すでにネームカードに出力スイッチ名称の記載が完了しているときは、ネームボード取り付けと一緒に取り付けてください。

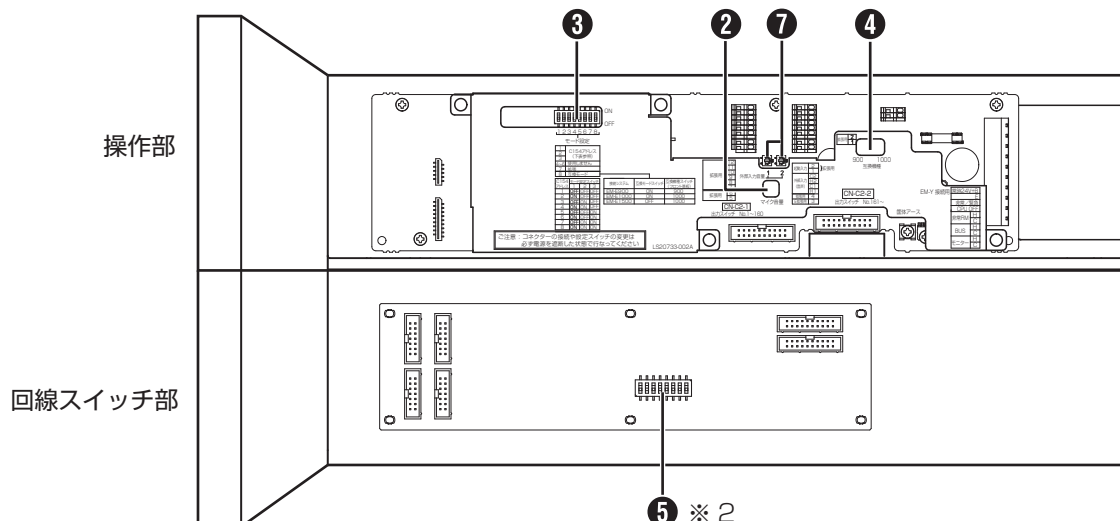
非常業務遠隔操作器 (EM-C156/EM-C154) と 回線追加ユニットケース (EM-ES12-10/EM-E12) の設定

非常業務遠隔操作器 (EM-C156/EM-C154) の設定と調節

非常リモコン (EM-C156/C154/C106/C96) は、全機種合計で 8 台まで非常業務操作器に接続できます。
EM-C156

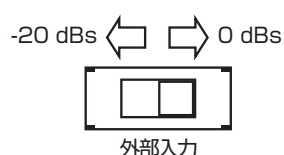


EM-C154



① 外部入力レベル切り換えスイッチ (EM-C156 のみ)

非常リモコン (EM-C156) の外部入力に接続する機器の入力レベルに合わせて切り換えてください。

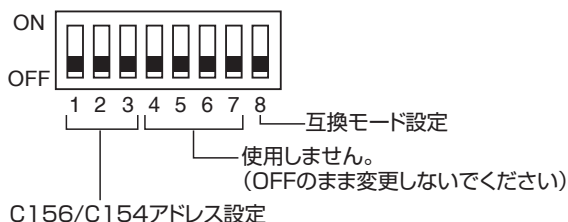


② マイク音量ボリューム

非常業務兼用マイクの音量を調節します。

本体 (EM-E106/E96) の非常 RM 音量ボリュームの調節を行う前に、このマイク音量と非常リモコン (EM-C156/C154) に接続する外部入力機器の音量調節を行なってください。

③ モード設定スイッチ



● C156/C154 アドレス設定

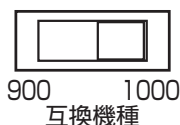
非常リモコンを複数台接続するときに、各機のアドレス(1～8)を設定します。

アドレス No. が重複していると正しく動作しないため、注意して設定してください。

アドレス	モード設定スイッチ		
	③-1	③-2	③-3
1	OFF	OFF	OFF
2	ON	OFF	OFF
3	OFF	ON	OFF
4	ON	ON	OFF
5	OFF	OFF	ON
6	ON	OFF	ON
7	OFF	ON	ON
8	ON	ON	ON

④ 互換機種スイッチ

図は EM-C154 のものです。



● 互換モード設定

接続するシステムに合わせて、互換モードスイッチと互換機種スイッチを設定します。

接続システム	互換モードスイッチ ③-8	互換機種スイッチ C156: ④ (フロント基板) C154: ④ (CPU 基板)
EM-E900	ON	900
EM-E1000	ON	1000
EM-E1500	OFF (*)	1000 (*)

(*) : 互換モード設定は、工場出荷時に「EM-E1500」に設定されています。

⑤ ES12 アドレス設定スイッチ

下図のディップスイッチで、設定するアドレス No. のスイッチだけを“ON”にしてください。

- ※ 1 非常リモコン (EM-C156) の ES12 アドレス No. は、本体 (EM-E106/E96) と同じに設定します。通常は“1”を使用します。(出力スイッチ No.1～20)
- ※ 2 非常リモコン (EM-C154) 回線スイッチ部の ES12 アドレス No. は、本体 (EM-E106/E96) と同じに設定します。通常は“1”を使用します。(出力スイッチ No.1～20)



⑥ LCD コントラストボリューム (EM-C156 のみ)

フロントパネル LCD の表示文字のコントラスト (明暗) を調節します。

機器上部よりドライバーを使用して調節します。

⑦ 外部入力 1,2 音量ボリューム (EM-C154 のみ)

外部入力 1,2 に接続した演奏機器の音量を調節します。

非常業務遠隔操作器 (EM-C156/EM-C154) と回線追加ユニットケース (EM-ES12-10/E12) の ES12/E12 アドレス設定

本体 (EM-E106/E96) および回線追加ケース (EM-ES12-10/E12) と同じ選択スイッチ配列となっています。非常リモコン (EM-C156/C154) と回線追加ケース (EM-ES12-10/E12) の ES12/E12 アドレス No. も、本体と同様に設定してください。

出力スイッチ No.	ES12 アドレス No. E12 アドレス No.	挿入する CN-C2
1～20	1	CN-C2-1
21～40	2	
41～60	3	
61～80	4	
81～100	5	
101～120	6	
121～140	7	
141～160	8	
161～180	1	CN-C2-2
181～200	2	
201～220	3	
221～240	4	
241～260	5	
261～280	6	
281～300	7	
301～320	8	

点検時のご注意

システム点検モードにおけるご注意

- ・システム構成確認時、本体（EM-E106/E96）の液晶表示部に表示されるシステム構成の確認画面では、EM-C156/C154 が接続されていても、点検を行なっている非常業務放送設備と同一シリーズの非常リモコンの機種名が表示されます。
 - EM-1000 シリーズの場合は、EM-C106 として表示されます。
 - EM-900 シリーズの場合は、EM-C96 として表示されます。
- ・システム構成確認時、本体（EM-E106/E96）の液晶表示部に表示されるシステム構成の確認画面では、EM-ES12-10 が接続されていても、EM-E12 として表示されます。
- ・システム点検モード時のモニター音量について
システム点検モードに入ると、非常リモコン（EM-C156/C154）のモニター音量が小さくなります。（本体（EM-E106/E96）および非常リモコン（EM-C106/EM-C96）のモニター音量は変更されません。）
変更されたモニター音量は再起動すると元の設定値に戻ります。

動作点検モードにおけるご注意 (EM-C154 を EM-1000 シリーズ に接続した場合のみ)

- ・RM モニター出力設定を「なし」に設定して動作点検を行なった場合は、非常リモコン（EM-C154）のモニター出力スイッチの操作は無効となります。

メモ：

- スイッチを操作すると表示灯は点灯 / 消灯しますが、非常リモコン（EM-C154）のモニタースピーカーから放送は出力されません。
- ・RM モニター出力設定を「あり」に設定して動作点検を行なった場合は、非常リモコン（EM-C154）のモニター出力スイッチは有効です。

Memo

**JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター**

固定電話  0120-2727-87

携帯電話・PHS  0570-010-114

一部のIP電話など 045-450-8950

FAX 045-450-2308

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ホームページ <http://www3.jvckenwood.com/>

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム

〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12